

一般港湾運送業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故の 型	労働者 規模
2017	3	17~18	倉庫において、海上コンテナへの荷出貨物の積み込み作業を行っていた際、貨物を固定する為の角材（60cm×10cm）がパレット上（床面から約80cm）から落下し、作業者の左足に当たり負傷した。	40	522	4	1～9
2017	3	15~16	納入先にて、トレーラー荷台上から鉄板の束（約1,450×1,450×180mm重量約1.6t）を西側の卸場へ荷卸し作業中、荷台上の待機場所にいた被災者は、ホイストクレーンが地切り後に西側方向に動き出したことを確認した上で、吊り荷の東側に移動した。しかし、クレーンオペ担当者の誤操作によりクレーンを東側に逆走させたために、吊り荷とトレーラーのあおりに挟まれ被災した。	36	211	7	100～299
2017	3	13~14	当社作業場にて、船からの揚荷を船内作業中に、オープンコンテナ（2400×600×1500）にフックを掛けて、荷物（角パイプ）を足場にして下りようとして地上に足をつけた時、下に敷き詰めてあった平鋼で足を滑らせて転倒し、右手で支えようとして右手を強打し捻挫した。	37	521	2	10～29
2017	3	10~11	倉庫内で鋼材の仕分け作業中、万棒の上に足をかけて作業しようとした時、万棒が滑ってしまい、そのままワイヤーロープに足を取られて負傷した。	32	921	19	10～29
			当該来船より揚げ荷であるC型鋼の揚げ荷作業を行っていた際、デッ				

2017	3	15~16	キマン（作業主任者）が巻き上げる為に地切りを行ったところ、移動式クレーンのジグが起こし気味だった為、船内の壁側で作業をしていた作業員2名の方へ向かい、退避したが1名が船内の壁とC型銅の間に右足を挟み負傷した。	65	521	6	100 ～ 299
2017	4	10~11	コンテナ内の異常有無確認のため、オンシャーシのコンテナに足場確保をせずに直接コンテナ後方からよじ登ろうとしたため、体勢を崩して後方に転倒し、手をついた。原因は、昇降台の使用などの足場確保をしなかったこと、降雨の影響で足元が滑りやすかったことにある。	47	221	1	1~ 9
2017	4	10~11	コンテナシャーシのゴム（エアチャック）を交換するため、マイナスドライバーを使用して作業していた。ゴムが外れにくいため体重をかけた状態で上から下へ押し込んでいた所、ドライバーの先端が滑って外れたことによりバランスを崩し、右手首・左肘・左膝をシャーシに打ちつけた。	36	364	3	100 ～ 299
2017	4	11~12	資材センター内ホーム前でテスト運転していた際、冷凍コンテナの電源を抜くためトラックのあおりに足を掛けて荷台に上がり、手すりを掴もうとした時に掴みきれず倒れ、体の右側面から地面に落ち、右肘腰顔面を強打して5分程度意識が薄れた。右肘に痛みがあり、その後、結果右肘頭の骨折が判明した。	46	221	1	100 ～ 299
2017	6	16~17	センターにて、作業を終えEV横階段を下りようと、一歩目の左足を階段に着床し、二歩目の右足を階段に着床させようとしたところ、目測を誤り階段を踏み外し、転落した。胸と右ひざを強打したが、その日はそのまま帰宅するも痛みがあり、右膝が腫れてきた。	63	413	1	10 ～ 29
2017	6	8~9	荷主先倉庫にて、当社の車上で積み荷のパイプをワイヤー交換のため吊荷（パイプ）を卸した時、パイプがばらけてしまい、左中指を挟み負傷した。	32	611	7	10 ～ 29
			クレーン作業終了後、クレーンを移動しアウトリガーを張り、左側のアウトリガーを確認するため運転席から降りるも、地面まで降り				

2017	7	16~ 17	ずに踊り場から身を乗り出して覗き込んでしまい、バランスを崩して約1.45m下の地面に飛び降りる形となった。その際、アウトリガーの敷板とコンクリートの地面の間に右足踵から着地し受傷した。	56	212	3	100 ~ 299
2017	9	7~8	バースで棒鋼のトラッククレーンで荷役作業を行っていた。横持トレーラー荷台上でトラッククレーン補助作業中、船内から水切りされた棒鋼の位置を荷台の外側から中心部へ再移動しようと荷台上で体を外側へ移動させた際、左足を荷台から踏み外しコンクリート舗装面へ落下した。	53	212	1	50 ~ 99
2017	9	16~ 17	当該作業者は、鉄板（長さ12,500mm×幅2,700mm×厚さ15mm、4,264kgs）を本船に積み込む作業で船内の手元作業に従事していた。67枚目を積み込む際に、クレーンに吊るされた鉄板を降ろし場所の上で一旦止め、合図者が積み付け確認の為、「よいか?」と問い掛けたところ、「よい」と返答した為、合図者が鉄板をおろした所、当該作業者はバランスを崩し、左手を鉄板と鉄板の間に入れて、左手を挟んだ。	25	521	7	30 ~ 49
2017	12	18~19	マイナス6m岸壁に接岸した艙内で、4m杉丸太の積付作業中に、丸太に雪が少し残っていて、その上で足をすべらせ3列目と4列目に段差が約1mあり、4列目に転落し、その際に丸太に右肩と右脇腹を強打した。	69	522	1	10 ~ 29
2017	12	9~10	被災者は、南側で作業の進捗確認を行っていた。その際、別の作業で立ち会いのため現場を訪れた荷主の来所を営業担当者に連絡するためPHSを操作しようとしていた。その時、近くでVAN詰め作業中の協力会社作業員が運転する4tフォークリフトがコンテナ内より後進しながら旋回した際に、左後輪が被災者の左足に乗り上げ負傷した。	61	222	7	100 ~ 299
			20フィートコンテナに1個あたり20~25kgの貨物を、先ずパレット				

2017	12	14~15	トに載せた状態で他の作業員がフォークリフトでコンテナ内部にいる該当者の手前まで運び、そこから手作業で1個ずつコンテナ目いっぱい計640個詰め込む作業を行っており、その際パレット上に載っていた貨物が不安定な形状だった為一部崩れ、右ふくらはぎに落下し、重さと衝撃で体勢が崩れ、右膝を負傷した。	42	611	4	10 ~ 29
2017	12	8~9	屋外の荷捌き場にて、重機（マグネット式バックホー）を使用し、トレーラーに貨物を積む作業を行っていたところ、重機の誤作動により、重機のアームが下がり、その反動で重機が傾き、元の状態に戻った際に衝撃があり、中にいた被災者が怪我をした。	48	142	6	30 ~ 49
2017	12	13~14	岸壁に横付けされたボックスバージ内にある、木箱2ケースの水切り作業の準備を行うため、作業員3名がボックスバージ内に下りた。玉掛け作業をしようと木箱（L917×W367×H355）の天井に上るため、梯子を木箱にかけ、先に作業員1名が上り、続く2人目（被災者）が約250cm上ったところで梯子が傾き、バランスを崩し、転落して負傷した（左側頭部出血、左手首骨折）。なお、作業員はヘルメットを着用していた。	22	371	1	10 ~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html